

## 1 学校課題

豊かな言語力を活かして、生き生きと学びあう児童の育成  
～「学習スキルの習得」を基盤とした言語活動の充実～

## 2 研究内容

### (1) 研究の方針

本年度は、「学習スキル」の習得を基盤に、教育活動全般において言語活動を充実させる2年目である。昨年度が取組が「書くスキル」にやや偏ったという反省をもとに、今年度は「聴くスキル」「話すスキル」にも力点をおくことで、学習スキルのさらなる向上とそれに伴う言語活動をより充実させ、生き生きと学びあう児童を育てることを目的に研究を進めた。

### (2) 研究の具体策

#### ①国語科で

「書くこと・聴くこと・話すこと」に関する単元で、学習スキルを確実に身につけるための指導の工夫・充実を図る。身につけた力を教育活動全般における言語活動の基本ツールとして使いこなせるようにする。

#### ②各教科およびその他の領域で

教科・領域の目標を達成するために言語活動を有効に活用する方法を研究する。

#### ③「ことのはタイム」

学年に応じて文字力や語彙力・文法力を鍛え、学習スキルの向上を図る。

#### ④「作文タイム」

全校一斉に同じテーマで書く時間を確保する。作文ノートに書かせることで書き直しや見返しを可能にし、「書くスキル」の向上とともに、自己評価の機会ともする。「作文タイム」で書いた作品は、代表者が全校放送で発表することとし、児童の書く意欲や向上心、「聴くスキル」の向上を図る。

#### ⑤「スピーチタイム」

児童が話したり聴いたりする訓練を継続的に行う過程で「話すスキル」「聴くスキル」を高める方法を工夫する。授業のなかでも発表説明・話し合いを効果的に導入し、豊かな言語活動が教科・領域等のめあて達成に有効に働くよう意識していく。



### 3 研究経過

○…教師の実践    ◎…児童の実践

月	内 容	月	内 容
4	○「作文タイム」指導計画作成 ○「ことのはタイム」昨年度の実績検討 ○「スピーチタイム」指導計画作成 ◎作文『〇年生になって』または スピーチ『自己紹介』 ◎作文 校内放送	10	○8/5 指導案検討会 2 - ① ◎10/1 作文タイム④（前期をふり返って） ◎10/7・8・9 作文校内放送 ○10/16 指導案検討会 2 - ② ○10/30 研究授業（5年） ○11/5 研究授業（3年） ◎11/22 作文タイム⑤（レインボー一班遠足） ◎12/3・4・5 作文校内放送
5	◎5/21 作文タイム①（運動会）※国語 1 ◎5/27・28・29 作文校内放送	11	○11/18 要請訪問（2） 研究授業 2年 大塚（国語）
6	○5/15 指導案検討会 1 - ① ○6/17 指導案検討会 1 - ② ◎6/18 作文タイム②（好きな〇〇紹介） ◎6/24・25・26 作文校内放送	12	○研究のまとめ ○研究集録原稿作成 ◎12/6 作文タイム⑥（おすすめの本紹介） ◎12/16・17・18 作文 校内放送
7	○6/24 指導案検討会 1 - ③ ○7/5 研究授業（1年） ◎7/11 作文タイム③（こんな夏休みにしたい） ◎7/16・17・18 作文校内放送	1	○12/19 研究授業（6年） ○12/20 研究授業（2年）
	○7/17 要請訪問（1） 研究授業 4年 福田（算数）	2	◎1/8 作文タイム⑦（今年の目標） ◎1/14・15・16 作文校内放送
	○「ことのはタイム」指導計画作成 「スピーチタイム」内容の見直し	3	○1/27 学校課題情報交換会② ◎2/14 作文タイム⑧（一年間をふり返って） ◎3/3・4・5 作文校内放送
8	○8/1 学校課題情報交換会①		

### 4 本年度の成果と課題

#### (1) 成果

- 国語科の授業で、学習スキルを身につけるための指導を工夫し研究改善を重ねた結果、児童の言語力が向上し、各教科および領域等における言語活動の基本ツールとして有効に働く場面が増えてきた。
- 「ことのはタイム」の積み重ねにより語彙が増え、作文やスピーチに活かせる児童が出てきた。
- 「作文タイム」実施により、まとまった量の文章を書くことに慣れ、基本的な文章構成力がついてきた。友達の校内放送に対し、関心をもって聴く態度が芽生えた。
- 「スピーチタイム」実施により、多くの児童が人前で話すことに慣れ、自信がついた。適切な声の大きさを意識するようにもなった。短文をつなげ充実した内容を話したり、質問に臨機応変に答えて、よりコミュニケーションに近い話し方ができたりした児童も見られた。
- 全職員が研究に主体的に携わり、忌憚のない意見を出し合って研究を進めた結果、研究内容が深まると同時に職員間の同僚性も高まった。

#### (2) 課題

- 「書くスキル」に関しては、語彙力・文章表現力ともに、個人差の広がりが出ている。また、作文指導は時間の確保が難しい。両者への対応策として、今後、TTの活用も検討したい。
- 「話すスキル」「聴くスキル」の向上のためには、事実のみでなく意見や感情も表現すること、また、よく聴いて適切な質問をすることも大切である。その点を意識しながら指導する必要がある。